

news

アガリクス・ブラゼイ協議会会長に エス・エス・アイ竹口氏

第1回総会開催

アガリクス・ブラゼイ協議会は13日、都内で第1回総会を開催し、会長にエス・エス・アイの竹口雅之氏、副会長に岩出菌学研究所の川出光生氏が就任した。独自のガイドラインを作成しアガリクス・ブラゼイの安全性の徹底を図る。

学術面では情報発信を目的に、(財)日本健康・栄養食品協会と連携し、ワーキンググループを立ち上げる。日健栄協から専門家の手を仰ぎ、各社の安全性資料や論文を精査し、アガリクス・ブラゼイの安全性を、対外的にアピールする準備を進める。

の安全性はもちろん、研究結果の報告、正しい利用法なども伝えていく。

会長に就

協議会では原料、商品で

日健栄協とも連携図る

任した竹口氏は「そし

独自のガイドラインを打ち出し、原料では小核試験、商品では安全性担保の原料100%使用、ヒト試験での安全性実証など独自の規格基準を定めた。またNPO法人化を目指し、今月中に申請内容を作成し、東京都に提出。6月中に登記が完了の予定としている。

ールする準備を進める。協議会ロゴマーク(図参照)も決定。当面このマークは商品、原料ではなく会員企業の名刺や企業のホームページ内での使用となる。消費者へのPRについては、小冊子を今年7月頃に発行するほか、市民公開講座を開き、アガリクス・ブラゼイ

でもう一度アガリクス・ブラゼイを世に認知させていきたい」とあいさつした。総会後開催された講演会には、厚労省新開発食品保健対策室の終寿珠氏が出席。「安全性を重視して活動していくということなので、今後の活動を見守りたい」と話していた。

社説

アガリクス報道から1年、企業が考えるべきこと

昨年の「アガリクスで発がん促進プロモーション作用」の発表から1年が過ぎた。アガリクス市場の冷え込みは、今さら言うまでもなく、ようやく「底を打った」と言われ始めたが、現在もまだ、回復というにはほど遠い状態が続いている。

「あの報道さえなければ」という声も相変わらず多い。しかし今さら時間が戻ってくるわけでもない。むしろ1年間、苦しい思いをしながらも、多くの企業が乗り越えられたのである。これを糧として、新しい市場を構築するにはどうすべきかを、企業と業界が一緒に考えて考えるべきだろう。

アガリクス・ブラゼイ協議会では、「消費者に安全な製品を届ける」ことを最優先に、独自のガイドラインを打ち出している。これに

相乗りするつもりはないが、不二家の問題に端を発して、食品の安全性、管理体制に厳しい目が注がれているおりでもある。企業としてはアガリクスで、これ以上の問題が起きないように、原料レベルでの生産管理、安全性確認を徹底し、商品段階でも自社で「どの角度からみても大丈夫」と言えるだけの確認をして、世に送り出すべきであろう。

またこれは、アガリクスだけの問題ではない。マスメディアが、健康食品のマイナス面ばかりを取り上げたがるのは、これまでの報道をみれば明らかだ。免疫関連はもちろんだが、すべての企業が、「食品の安全性」を守るにはどうすればいいのか、消費者に安全だという証をどう伝えるか、この点に注力すべきだろう。